

# RSテクノロジー

## 佐藤浩工場長に聞く

半導体シリコンウエハー(基板)の再生加工を手がけるRSテクノロジー(東京)は、宮城県大崎市の三本木工場の増強に乗り出す。2027年度から3年間で151億4400万円を投じ、生産能力を約1.5倍に拡大する。国内外で半導体工場の新設が相次いでおり、世界的な需要の高まりに 대응する。

### 27年度から3年

## 生産能力1.5倍拡大

工場敷地内の既存建屋に26年3月から生産設備を入れ、27年度から順次増産する。月間の生産能力を29年度までに17万枚増やし、50万枚規模まで高める。生産増に伴い、従業員の約100人増員を見込む。

半導体製造工程で使ったテストウエハーを再利用できるように加工する事業で、三本木工場と台湾の子会社で、月に約55万枚を出荷する。シェアは世界トップで全体の約3割を占める。

佐藤浩工場長は「世界的に需要は旺盛で、現在もフル稼働の状態。生産能力を大幅に拡大し、ニーズに対応していく」と意気込む。

半導体シリコンウエハーの再生加工で世界トップのRSテクノロジーは、三本木工場の生産設備を増強し、次世代電池の実証にも取り組む。佐藤浩工場長に概要と展望を聞いた。

(経済部・三浦光晴)

◇ ウエハーの再生とは。

「半導体の製造は多数の装置を使う。数百の工程を重ね、数カ月かけて作る。途中で不具合があると歩留まり(合格品の割合)に響くため、テスト用のウエハーで検証する。使用したテストウエハーを預かり、新品同様に返すのが私たちの仕事だ。表面の膜や傷を薬品に漬けたり、研磨したりして鏡面状態に戻す」

「当社を含む国内3社と台湾3社で世界シェアの大多数を占める。当社のシェアは33%でトップ。三本木工場と台湾の子会社で月に計55万枚を生産している」

― 基幹の三本木工場で生産能力を拡大する。

「三本木は(工業製品製造の)

「さとう・ひろし 宮城高専(現・仙台高専)卒。東北でシンダクタを営む。2011年にRSテクノロジーに入社。製造課長などを務め、20年9月から現職。58歳。仙台市出身。」



## 次世代電池実証も 発電所蓄電へ活用期待

ラサ工業(東京)から引き継いだ施設。第8工場で月に約32万枚を生産している。2026年3月からは隣の第7工場に生産設備を入れ、27年度に10万枚、28年度に4万枚、29年度に3万枚の増産を目指す」

― 次世代電池の実証にも乗り出す。

「連結子会社のLEシステム(東京)の製造拠点が福島県浪江町にあり、バナジウムレドックスフロー電池(VRFB)の電解液を製造している。大規模・大容量が特徴で長寿命。電解液は不燃性で安全性が高く、発電所の蓄電設備として期待されている。容量1万kWhを超えてVRFBとリチウムイオン電池の蓄電池を三本木工場に置き、近隣に新設するメガソーラー(大規模太陽光発電所)から電気を送り、性能を比較したい」

― 発電所の規模は。

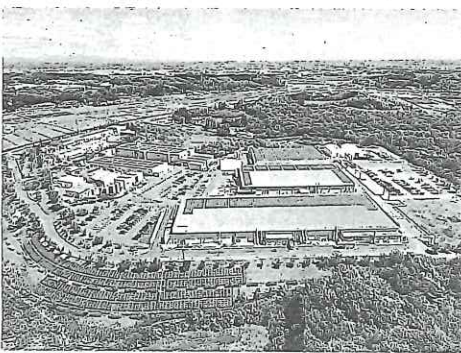
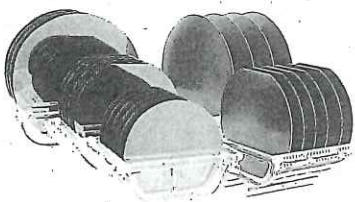
「工場の東約2.5kmの東北自動車道沿いに整備する。既に約25万平方メートルの用地を取得した。25年に着工し、26年中の稼働を予定する。出力は約1万kW。事業費は約40億円を見込む。大規模停電時は地域社会のために役立てたい」

― 三本木工場の展望は。

「半導体デバイスが進化する中、自分たちの技術の改善・開発もここで取り組んでいる。文系出身を含む多様な人材が技術者として活躍できる環境がある。半導体産業の発展をこの地からサポートしていく」

## 半導体基板再生

# 大崎・三本木工場増強



RSテクノロジーが再生加工したウエハー(左)と、腰が付着して色が付いたウエハー。RSテクノロジーの三本木工場、第8工場(右手前)に隣接する建屋を増産に乗り出す(いずれも同社提供)